

巻頭言



「世の中に必要なものこそ栄える」

岩谷産業株式会社

代表取締役社長 牧野 明次

(水素エネルギー協会 団体会員)



岩谷産業は、おかげさまで本年創業 80 周年を迎えさせて頂きました。

これもひとえに平素よりお引き立てを賜っております皆様方のご支援の賜物と存じあげ、心より感謝申し上げます。当社 80 年の歴史は、昭和 5 年の岩谷直治商店の創業にさかのぼりますが、創業者、故岩谷直治氏の「世の中に必要なものこそ栄える」という言葉は、当社普遍の企業理念となっています。

当社が初めて水素の販売を手掛けたのは昭和 16 年ですが、その後、安定供給に向け昭和 34 年に大阪水素工業(現岩谷瓦斯)尼崎工場を竣工しました。当時の原料は、苛性ソーダ工場から副次的に発生する水素ガスでしたが、これを精製し、高純度水素ガスの製造を行っていました。その後、昭和 50 年には、毎時 10ℓ の液化水素を製造する装置を同工場に設置、国内初の液化水素製造に着手しました。翌年、宇宙開発事業団(現 JAXA)殿向けに 1,000ℓ の液化水素を日本で初めて納入したことを機に本格的に量産を開始、昭和 53 年には、毎時 730ℓ の製造能力を有する大型商用液化水素製造プラントを尼崎で稼働させました。このように、供給インフラを整備しながら、我が国初の液水・液酸ロケット H-1 の打上げにも参画、これまで三十年余りに亘り、宇宙開発用ロケットの燃料として液化水素の供給を担ってまいりました。それまでは、還元用の雰囲気ガスや光輝焼鈍用など、産業用の用途が主だった水素ガスですが、H-1 ロケットの打ち上げ成功により、水素がエネルギーとして有用であることが証明され、これが当社の永年の夢の具体化の第一歩となりました。

現在、当社は他に先駆けて液化水素の製造インフラの整備に取り組んでおり、今後の増大が見込まれる液化水素需要に万全の体制で臨むべく、拠点を拡大しています。

まず、平成 18 年に関西電力グループ殿と合弁で(株)ハイドロエッジを設立、LNG の冷熱を利用した天然ガス改質型水素による液化水素製造プラント(毎時 3,000ℓ×2 系列)の操業を開始しました。また、平成 21 年には、岩谷瓦斯(株)千葉工場に毎時 3,000ℓ の製造能力を有する液化水素プラントを稼働させ、更に来年度中には 3 番目の製造拠点を西日本に建設する予定です。

水素エネルギー社会実現に向けては、規制緩和や法整備を始め、官民が一体となって取り組まなければならない多くの課題がありますが、まずは水素の安全性や利便性の高さを広く世の中に理解していただけるよう、ネットワーク作りに努め、裾野を広げる必要があります。かねてより水素の普及に熱心な福岡県では、10 月から産官学連携で「北九州水素タウン」の実証事業が開始されました。これは、一般の住宅に配管で水素を供給し、純水素型の家庭用燃料電池を使って実際に水素エネルギーを作り、各家庭で利用できるようにする構想ですが、当社も積極的に加わっています。又、税制をはじめ、様々な行政面で優遇策を講じ、水素利用を促進する「水素特区」も実験的に行われ始めました。さらに、2015 年にはいよいよ燃料電池自動車(FCV)の量産化が計画されるなど、本格的な普及に向けて、数々の取り組みが本格化しています。この FCV 普及に関しては、同時並行でインフラを整える必要があります、水素ステーションの拡充が欠かせません。ガソリンスタンドと同じとまではいかないまでも、少なくとも安心して FCV で遠出が出来るよう、充填基

地を整備しなければなりません。当社は、これまで培った技術・知見・ノウハウを活かし、水素ステーションの設置や運営に努め、安全・安心・安価をキーワードに、水素をより安定的に供給できるシステムを構築していきたいと考えています

又、創業 80 周年の記念事業の一つとして、本年 9 月から「水素エネルギー教室 80」を開催し、全国の小学校で、小学生に水素の有益性を学んでもらう場を提供しています。

今や、地球環境問題は世界的テーマであり、温暖化ガスの削減目標に向け、各国とも京都議定書の期限である 2012 年まで、これまで以上の努力が求められています

だまっけては低炭素社会の実現はありません。水素エネルギー社会の早期実現は、われわれ人類共有の財産であるこの美しい地球を守る有効な手段のひとつです。

「水から生まれて水に還る」水素エネルギーは、我々人類にとってまさに必要なものであり、「世の中に必要なものこそ栄える」、この言葉を復唱しながら、HESS の一員として、夢にあふれた未来社会を願い、全力で頑張っていきたいと考えます。